



天高く馬肥ゆる秋、読書の秋！猛暑厳しかった今年は特に待ち遠しかった秋。満を持しての到来です。しかしながら、こここのところの異常気象はこの豊潤な季節を長くとどめてはくれない模様、心して満喫したいものです。学校図書館でも様々な企画を計画中です。従来の「真昼の読書会」をさらにパワーアップ！1冊の本をまな板に載せて ①朗読会→②司書教諭・国語科の長嶋先生と学校司書・本間とともに、その本を巡る対話（Reading Dialog）→③読書会→④ホントウタイム というフルコースで、みなさんと読書の愉しみをシェアしていきたいと思えます。学校図書館の可能性は無限大です。

📖 学校図書館を利用した授業風景

👉 3年国語・論説文を要約しよう！



学校図書館にある論説系の本の一部を要約する練習をし、学びあいました。

▼自分の課題が終わったら、未完成の友達に教えることによって自らの学びを深めます。



👉 3年社会・「現代社会と私たち」調べる学習



グローバル化・少子高齢化・情報化・文化の継承と拡散 のテーマから、グループで話し合い問題を立ち上げてレポートにまとめます。TPC以外にも、学校図書館資料の白書や新聞、もちろん本も利用して調べを深めました。



📖 今月の BIP (Book Is Power)

新しいお札も定着してきた今日この頃、お金はたくさん持っているとお心？あればあったで詐欺グループに標的にされることも？！

知って得する「お金」のあれこれを4点。

- 『お金ってなんだろう？』
- 『きみのお金は誰のため』
- 『お金物語』
- 『マンガで読む資本とイデオロギー』



🍱 給食×本



10月16日は「世界食糧デー」です。世界中の人々が協力しあい、最も重要な基本的的人権のひとつである「食料への権利」を実現し、飢餓を解決することを目的に制定された国連の記念日です。

食品ロスが問題となる国がある一方で、世界的には現在も11人に1人に相当する約7億3300万人が飢餓に直面しているのです。

🌸 10月の読書会は「恋愛」から「失恋の先にあるもの」へ

前回は佐伯さんとカフカ少年が結ばれる直前の場面を取り上げて語り合いました。今回はこの二人が永遠の別れを前に繰り広げられる会話劇を読み解き、失恋の痛みのあるものについて、学年を超えてしゃべりました。

第五回 真昼の読書会 【失恋の先にあるもの】

僕は首を振る。「ねえ佐伯さん、あなたにはよくわかっていないんだ。僕が戻る世界なんてどこにもないんです。僕は生まれてこのかた、誰かにほんとうに愛されたり求められたりした覚えがありません。自分自身のほかに誰に頼ればいいのかもわかりません。あなたの言う『もとの生活』なんて、僕にとってはなんの意味もないものなんです」

「それでもやはりあなたは戻らなくちゃいけないのよ」

「たとえそこになにもなくても？誰ひとりとして僕がそこにいることを求めているなくても？」

「そうじゃないわ」と彼女は言う。「私がそれを求めているのよ。あなたがそこにいることを」

「でもあなたはそこにはいない。そうですね？」

佐伯さんは両手に包んでいる茶碗を見下ろす。「そうね、残念ながら私はもうそこにはいない」

「じゃあ佐伯さんはそこに戻った僕にいったいなにを求めているんですか？」

「私があなたに求めていることはたったひとつ」と佐伯さんは言う。そして顔をあげ、僕の目をまっすぐに見る。「あなたに私のことを覚えていてほしいの。あなたさえ私のことを覚えていてくれれば、ほかのすべての人に忘れられたってかまわない」

沈黙が僕らのあいだに降りる。深い沈黙だ。

『海辺のカフカ』 村上春樹 より

